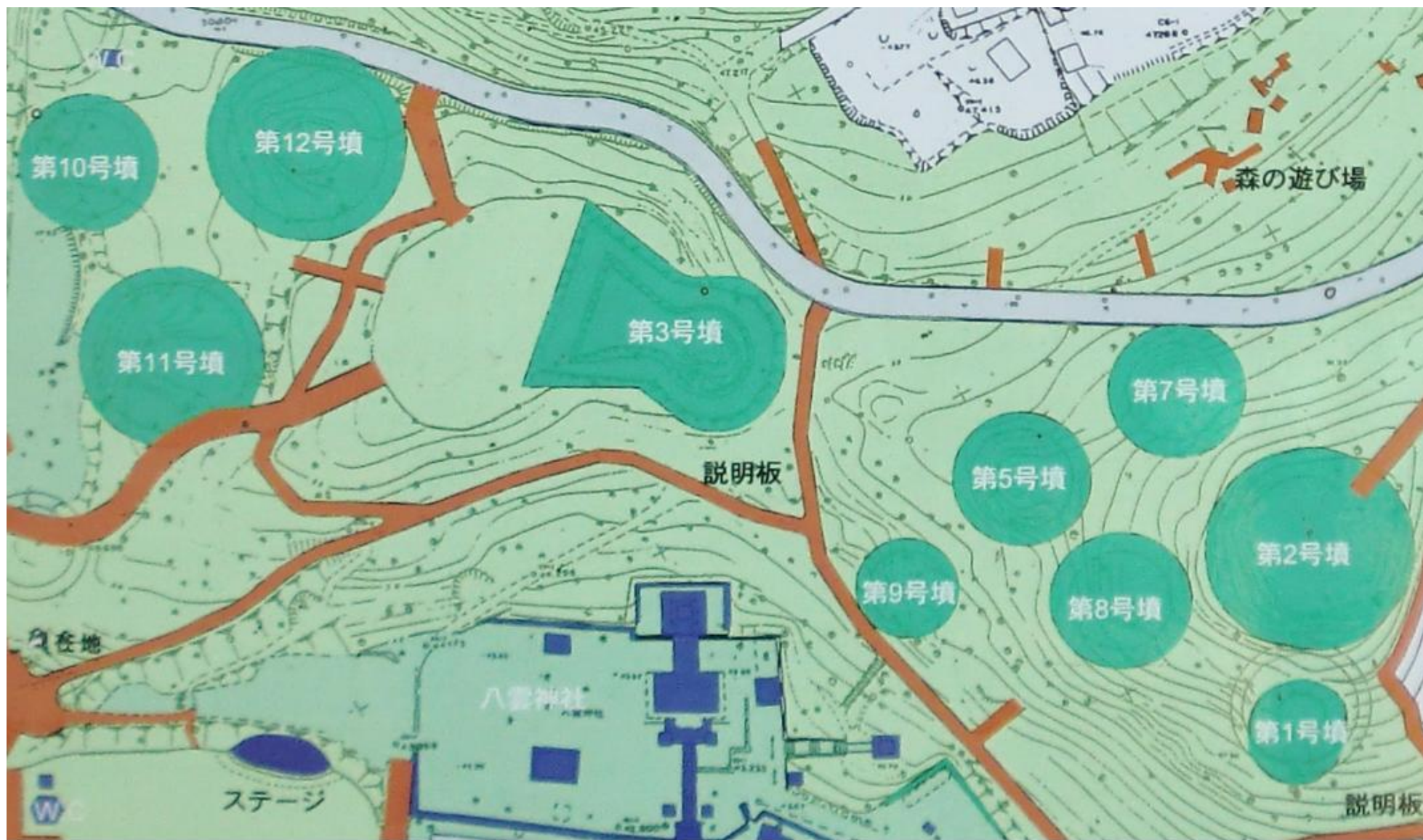


## 足利公園古墳(足利市)









3号墳



## 足利公園第3号墳



発掘調査で出土したとも形埴輪



明治19年に出土した杏葉  
(栃木県史 資料編考古二より)

本古墳は、平成5年度、保存整備に伴う発掘調査が行われ、丘陵を巧みに利用してつくられた全長約34m、高さ6m以上（谷側から）の前方後円墳であることがわかりました。墳丘は2段築成で、河原石の葺石を持ち、1段目テラスには小さな石がすき間なく敷かれ、さらに、円筒埴輪が接して一列にならんでいました（左写真参照）。造られた当時は全面に石が張られ、異様な景観であったと推定されます。そのほか、人物、家、盾、とも、ゆき、大刀、きぬがさの形をした埴輪が出土し、墳頂部を中心に立てられていたと考えられます（左写真）。

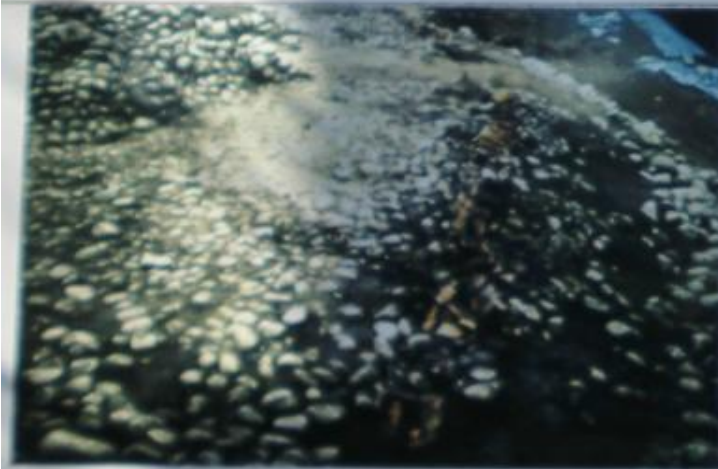
内部主体は、南東を向いた両袖式の横穴式石室です。奥壁は、チャート（山石）の2枚重ね、側壁もチャートの割石を積んだものです。全長7.9m、玄室長3.3m、玄室幅約1.8m、高さ約2.1mです。

本墳は、明治19（1886）年、足利織物講習所役員・峰岸政逸氏によって発掘調査された足利公園第3号墳であると考えられます。この発掘がきっかけとなって坪井正五郎博士による発掘調査が行われました。

当時の記録によれば、この古墳からは、金環、小刀、鉄鏃、櫓、馬具、杏葉（左図）、鎧小札等、さらに須恵器が出土しており、甲冑を身につけ馬具で飾られた馬に乗った支配者の姿が思い浮かびます。

峰岸政逸氏は、弘化2（1846）年、今福村に生まれ、明治時代足利の機業界で活躍する一方、文化人としても知られていました。

本古墳は足利公園古墳群内で最も大きな前方後円墳として貴重です。



平成5年発掘調査中の足利公園第3号墳

平成9年3月

足利市教育委員会































10号墳







12号墳









11号墳










### 考古学の源 足利公園古墳

公園内のあちこちに古墳の跡があり、往古、かなり繁栄した土地であったことが明りです。古墳群跡には墓の直線や円墳跡があり、昭和13年、東京帝国大学の石原五郎先生により日本最初の学術発掘調査が行われました。日本の考古学の発生の地ともいえます。足利市には4-7世紀の古墳の多数存在しています。

© 2010 足利公園古墳

## 考古学の源 足利公園古墳

公園内のあちこちに古墳があり、往古、かなり栄えた土地であったことが判ります。山頂附近に三基の立派な円墳があり、明治19年、東京帝国大学の坪井正五郎先生により日本最初の学術発掘調査が行われました。日本の考古学の発生の地とも言えましょう。足利市には4-7世紀の古墳が多数散在しています。

寄贈  ロータリークラブ

9号墳









5号墳





















8号墳







1号墳









# 足利公園第1号墳



1~3号墳の石室及び遺物出土状態

坪井正五郎博士



平成4年発掘調査中の足利公園第1号墳

この古墳は、南東向の急な斜面につくられた直径約16m、高さ4.5m以上（谷側から）の円墳です。墳丘は2段築成で、河原石の葺石を持ち、さらに1段目テラスには一定の間隔をあけ埴輪がならんでいました。ただし、山側は1段目の葺石、埴輪列ともに省略され、谷側から見上げた時、大きく立派に見えるようつくられています。

内部主体は、南東を向いた無袖式の横穴式石室で、長さ3.5m以上、高さ約1.75mです。奥壁はチャート（山石）の2枚重ね、側壁は細長い河原石を小口積みにしたものです。

平成4年度に保存整備にともなう発掘調査が行われ、耳環、家形埴輪、朝顔形埴輪、円筒埴輪、須恵器などが出土しました。

本墳は、明治19(1886)年、足利公園造成にともない、人類学者の坪井正五郎博士によりわが国初の古墳の科学的な調査が行われた、足利公園第1号墳であると考えられます。当時の記録によれば、この古墳からは、人骨大人1体分、勾玉2個、丸玉4個、小玉4個、金銀環8個、直刀7振、刀子2本、鉄鏃等が出土しています。

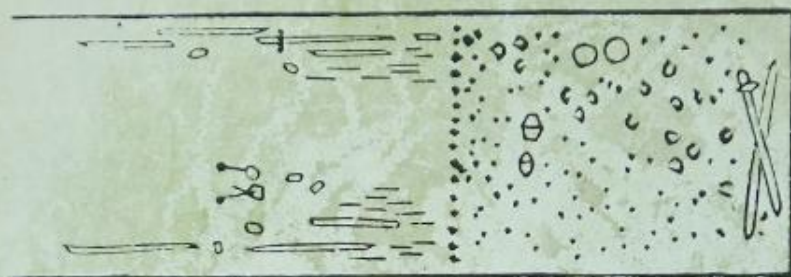
坪井博士は、文久3(1863)年、江戸両国に生れ、東京大学大学院在学中にこの古墳の調査を行いました。その後も東京芝丸山古墳などの調査を精力的に行いわが国近代考古学の発展に大きな寄与をした人です。

この古墳は日本の近代古墳研究の記念碑として貴重です。

平成6年1月

足利市教育委員会

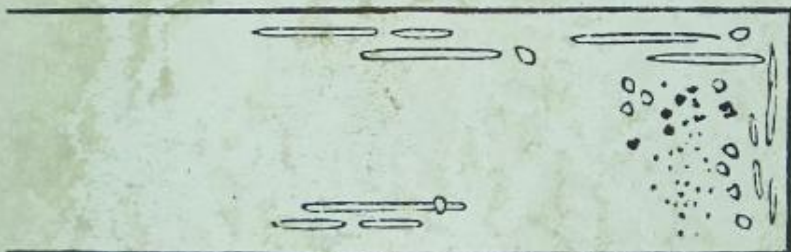
(圖一第)



第二号古墳

器金 類玉骨人器金

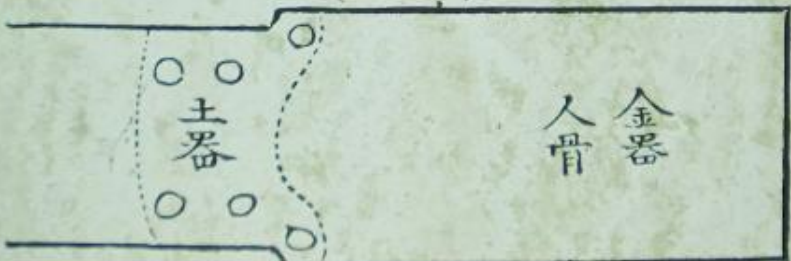
(圖二第)



第一号古墳

器金 類玉骨人器金

(圖三第)



第三号古墳

人骨 金器

土器

























2号墳























7号墳














## 蓮台寺砦

平安時代、北関東一帯は、下野の押領使(軍事警察の長官)藤原秀郷の子孫が勢力を伸ばし、治めていました。

天喜2年(1054)伊勢崎淵名城主藤原成行が足利に入部し、両崖山城を築いたと伝えられます。藤姓足利氏がこの時出来たのです。

一族の「足利五郎大藤原行国」の館がこの付近にあって、蓮台寺砦と呼ばれていました。両崖山城の出城のような役目を果たしていたのかも知れませんが、あるいは、行国の館であったのかも知れません。行国は後に両崖山城主になり、お墓は、7丁目三寶院西端にあります。墓は、五輪塔ですが、水輪の部分が古くて貴重です。

寄贈  ロータリークラブ





足利七福神めぐり案内図



多宝山 裂尊福蔵寺



裂尊は、寿永元年(二八二年)藤姓足利(藤原  
 季足利氏)四代目の忠綱が、母の菩提と父  
 (俊綱)供養のために創建したといわれている。  
 理真上人が、源姓の足利義兼と持子夫人  
 (北条政子の妹)との間に男子が授かるよう  
 「麦成男子の修法」を行なったとき、用いら  
 れた観音像が、一七三六年、裏山の岩窟から  
 発見され、「子安観音」(秘仏)として所蔵さ  
 れている。千手観音、セキ地藏も名高い。  
 ここに、布袋尊が祀られ、大量の福德を持  
 ち、子宝と子供の病氣平癒にも靈驗多しとさ  
 れ広く信仰されている。宗派 臨済宗建長寺派







## 八雲神社 (牛頭天王)

佐野藩の城主、下守藤原村雄(秀郷の父)がアのお告げにより、貞享年間(859-876)に創建したと伝えられています。

三「松本神社」に比定され、天保11年(868)に大工藤原基が当町に上社、5丁目に下社を願所として創建したといわれています。

平将門の亂に平定新藤(足利)に足利、染、河、とあり、平定新藤と呼ばれ、広く崇敬を蒙り、朝廷や国府からの参拝も認めたと伝えられます。境内に宝蔵寺(本願寺)もあつたようである。

寄贈  ロータリークラブ





参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga\\_asi1/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga_asi1/)

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga\\_asi3/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga_asi3/)

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga\\_asi5/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga_asi5/)

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga\\_asi2789/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga_asi2789/)

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga\\_asi101112/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/asikaga_asi101112/)